曹洞春秋

SOH　TOH　SHUN　JYŪ

發行所　總和会本部　〒105-0002 東京都港区愛宕2-3-4 大本山總持寺出張所内 TEL 03(3431)5017

總和会三綱領

1、宗門の興隆を図り、宗政の運営に関し、公正妥当なる施策の実現を期すること。
2、本宗の伝統性格を尊重し、大本山の尊厳維持に努めること。
3、会員相互の協調連絡を図り、その親和結束を固くすること。

總和会会長鬼生田俊英師宗務総長就任

新内局 総務部長 橋本壽幸師、伝道部長 中村見自師、人事部長 成田隆真師 10月22日発足

第27回總和会全国大会開催　期日：平成30年11月6日／場所：曹洞宗檀信徒会館

式辞

總和会会長　鬼生田 俊英

本日ここに、紫雲臺猊下のご親修を賜り、第27回總和会全国大会を開催いたしましたところ、全国各地より多数の会員同志にお集まり頂きましたこと、心より厚く御礼と感謝を申し上げます。

大本山總持寺貫首江川辰三大禅師猊下におかれましては、引き続き大遠忌事業をお導き頂き、全国各地へのご巡錫ご接化をはじめ、ご本山の諸事業にご尽瘁のこと、さらには本年1月より曹洞宗管長にご就任され、宗門の師表として宗務にご尽力いただいておりますこと、誠に有り難く感激に堪えない次第であります。

特に明年は、本山独住第4世中興石川素童禅師の100回御遠忌正当の年となり、いっそうのお力を発揮されますこと、切に願うものでございます。

不肖私は、さる10月16日にご推輓を受け、宗務総長に就任いたしました。今後とも身命を賭して各位のご期待に添えるよう全力で邁進してまいりたいと決意いたしております。どうぞ宜しくご理解ご協力を願うものであります。

昨今の自然災害はその類を見ることなく、全国各地に甚大な被害をもたらし、檀信徒はもとより寺院の建物にも恐ろしい爪痕を残し、生命をも奪われることになっています。ここに改めて尊い生命を失われた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、一日も早い復興がなされることを願ってやみません。

東日本大震災による未解決の問題が多く横たわっております。特に福島第一原子力発電所の事故は、先の見通せない原発処理問題をはじめ、普通のあたりまえの生活がいつやってくるのか、復興への道のりは重く長い試練となっております。

こうした中にあって国際社会をはじめ、日本国内において真に幸福な生活が求められております。人々の心の拠り所としての我々の使命が、さらに課せられているものだと自覚せざるをえません。明年は元号も変わります。今、改めて平成の時代を顧み、新たな出発を期してまいりたいと思っております。

山積する諸問題は複雑多岐にわたり、一朝には解決を見るには至らないと存じますが、各位のご理解とご支援をお願いし、一歩一歩その実現のために邁進してまいる所存であります。

最後に總和会三綱領のもとに、大本山總持寺のご隆盛と会員各位のご隆昌を心より願い、ここに全国大会開催の御礼と感謝を申し上げます。

鶴一聲

柔軟心（にゅうなんしん）

私がPTA会長を務めていた入学式の挨拶で「三つの心」を大事にしてくださいと言いました。それは、一「ありがとうと言える感謝の心」、二「ごめんなさいと言える反省の心」、三「はいと言える素直な心」。これは自分の価値観を押し付けることなく「こんな考え方もあるんだ」と思えるしなやかな広い心を持って中学生活を送ってほしいという願いからでした。ただこれは新一年生だけへの言葉ではなく全生徒、保護者（大人）への投げかけでもありました。簡単のようでできない、これが心の持ちようではないでしょうか。

私達は普段、先入観や思い込みで物事を判断し、時間や成果に追われれば追われるほど心が固くなってしまいます。

国内外のニュースを目にするとき、首脳同士の罵り合いだったり、偽装問題、宗教対立等々、未来を託す子供たちが生まれてきて良かったと思える社会なのかと不安になるときがあります。

だからこそ冒頭の記述を総合する「柔軟心」を私たちは発心し、自分も他人も心地よい生活ができる社会を目指さなければと思うのです。

十月から新たな議員二十名を迎え宗議会がスタートしました。私もこの心を胸に微力ながら勤めたいと思います。

ご垂示

大本山總持寺貫首　江川 辰三

本日ここに、本大会が盛大に開催されますこと、心よりお慶びを申し上げます。

会員の皆様におかれましては、平素本山の為に並々ならぬご尽力を寄与していただき、厚く御礼を申し上げます。

ご承知の通り、ただ今本山では、「御両尊大遠忌法会」の奉修期間に相当しております。

来年11月には、私の３代前の師僧にあたる、中興石川素童禅師様の100回御遠忌が営修されます。

大遠忌事業の一環である山内伽藍整備も、計画に順じて着々と進められております。

今後共、何卒皆様から格別のご法愛、お力添えをお寄せいただきますよう、謹んで念ずる次第であります。

太祖様は出家者のみならず常に民衆を思い、そして現実の社会が互いに他を認め合い、敬い合う和合の世界になるように、身心を全挙して実践を重ねられました。

私たちはこの太祖様のみこころをしっかりと受け止めた上で、社会との関わり合いの中で、取り組むべき実践を今一度問い直し、歩みを進めていく必要があります。

どうか、深く噛みしめていただきたいと念願するものです。今大会の開催に重ねて祝意を表すると共に、実り多き成果を祈念申し上げ、祝辞といたします。

全国大会開会式
残暑何之颯盛秋
總和會衆祖前酬
照心古教誰為主
向上機縁甘露周

人人道器清泉汲
日月雙懸耀不休

物故者追悼諷経
一片心香奉徳威
増崇供養發光輝
金風體露秋如錦
古佛相和為衆祈

月隨流水無蹤跡
妙用如如絶是非

祝 辞

總和会最高顧問・大本山總持寺副貫首　石附 周行

錦秋の好時節、本年も曹洞宗檀信徒会館を会場として總和会全国大会が盛会に開催されますことは誠に喜ばしく、心よりお祝い申し上げます。この大会に全国各支部からの代表者がご参集され、一堂に会せられますことは光栄至極の至りであります。

そして、本年の大会は任期満了によって改選されました新選良の議員諸老師と拝眉できますことと、新總和会長のもとでの首班内局の顔ぶれにも拝するわけであり喜びと期待を重ねる大会でもあります。

紫雲臺猊下におかれましては、大変ご清祥であられ、三度の曹洞宗管長にご就任され、更に全日本仏教会会長の重責をも担っておられます。本日もご親修によって仏祖諷経・会員物故者追悼諷経をおつとめいただき、誠に有難きご教導を賜ったところであり感謝に堪えないところでございます。

大本山總持寺におきましては、来る2024年に「太祖瑩山紹瑾禅師700回大遠忌」を迎えることへの準備が着々と進められ、特に諸伽藍の整備に邁進されております。御移転100年を経ての、まさに大本山の威容が整えられ、意義深い大遠忌の奉修に努めたいと念じておるところでございます。全国總和会会員諸老師におかれましては、引続きのご加担をよろしくお願い申し上げる次第でございます。

瑩山禅師の永光寺『盡未来際置文』の中に「一味同心にして……専ら門風を興行すべし……」とお示しであります。これは禅師が五老峰を築造され、一宗としての僧団の宗派的結成を明確になしとげられたことにある、とされています。そして、宗門伝統の標示となって純粋性・正統性を五老峰に託したことと受け止められると思います。

このお示しの精神を本大会の總和会に置き換えて考えてみますと、会員相互の議論百出あったとしても、その議論が上下したとしても最終的には「一味同心」の総括によって歩んで行くことこそ瑩山禅師のお示しに添える重要なことではないかと思います。

まさに、本大会は誠に和やかに親和結束が現成し、首班会派としての活発な政策議論へと展開されますことを期待申し上げているところでございます。各位の愈々のご活躍を祈念申し上げ、祝意に代えさせていただきます。

祝辞

總和会常任顧問・大本山總持寺監院　乙川 暎元

秋気いよいよ深く、日毎に寒気加わる時節となりました。

本日茲に、總和会全国大会が開催されますこと、心よりお慶びを申し上げます。会員諸老師に於かれましては、平素より宗門の興隆・本山の護持発展・御両尊大遠忌法会の多大なるお力添えをいただいておりますこと、厚く御礼を申し上げます。また、この度 鬼生田老師には總和会会長職に引続きご就任されましたこと、心よりお祝い申し上げます。更には宗務総長として宗政の舵取りを担われ、大いなるお力を発揮されますことをご期待申し上げます。

本山では６年後の「御開山太祖瑩山紹瑾禅師700回大遠忌」奉修を目指して歩みを進めているところでございますが、それまでには2019年11月３日から５日に独住第４世中興石川素童禅師の100回御遠忌、2020年４月の報恩大授戒会中に普蔵院開基太源宗真禅師の650回御遠忌、2021年には祖院震災復興事業竣工・祖院震災復興諸堂落慶法要などの諸行持も予定されております。ちなみに2021年は更に本山開創700年、懐観大姉700回御遠忌にも相当しておるところでございます。

大遠忌記念事業として、紫雲臺の耐震改修をはじめとする諸伽藍の整備も進めておるところでございます。紫雲臺においては昨年７月１日より耐震・保存修理が始まり現在、素屋根で覆い、土居板（どいた）の確認、鬼瓦の調整なども進められております。その整備の中で本年10月９日には東司エレベーター棟・接続回廊工事が終わり仮使用、10月31日に引渡完了いたしております。

また、各広報にて既報しておりました、平成２年に落慶した三松閣の全面改修工事が10月４日に無事終了しております。各々御寺院、檀信徒の皆様方に多大なる御不便を御掛けいたしましたが、利便性向上が図られた研修道場を拝登された際にご利用いただきたくお願い申し上げます。尚、遠忌事業とは別に進めておりましたこの工事に加え、今年に入り破損状態が著しい向唐門修復工事を予定しております。このことに関しまして總和会・嶽山会に別途改めて趣意書にてお願いする次第であります。何卒宜しくお願い申し上げます。

紫雲臺猊下に於かれましては昨年、御歳九十歳の嘉辰を目出度くお迎えになられました。１月22日より３度目の曹洞宗管長に御就任なされ、更に４月より全日本仏教会会長に御就任なされております。この11月９日には日本において第29回世界仏教徒連盟世界仏教徒会議が開催され、当山を会場とし世界平和祈願法要が執り行われ、大禅師猊下が法要導師をお勤めになられます。また10月24日には、瑩山禅師初開道場である城満寺の伽藍復興に御尽力なされた大槻哲哉老師の本葬儀が大祖堂にて修行され、大禅師猊下が秉炬佛事師をお勤めになられました。

本山僧堂に於いては冬安居制中期間となり、ようやく僧堂生活に慣れた春上山新到和尚に、新たに秋上山した４名を加わえて、役寮、大衆一同辦道に勤しんでおります。

最後になりましたが、本大会の成功と会員諸老師の法身堅固並びに總和会の益々のご発展を冀い、祝辞といたします。

祝辞

總和会常任顧問・曹洞宗参議　佐瀬 道淳

爽やかな秋の好時節、ここに第27回總和会全国大会が開催されることを心よりお慶び申し上げます。紫雲臺猊下には御親修を賜り有り難く存じ上げます。御両尊大遠忌事業を勧められる中、３度目の管長にご就任になられ、何かと公務ご多忙のことと拝察申し上げ、益々の御法体長養をお祈り申し上げます。

さてこの度は、鬼生田總和会会長首班の總和会内局の御誕生、誠におめでとうございます。また新しく宗議会議員としてご当選されました皆様にも心からなる祝意を申し上げるものであります。

さて、今日人類の行く末、宗教界、とりわけ仏教界の置かれている状況等をつぶさに顧みます時、大変困難な問題に直面している現状に目をそらすことは出来ません。

どうか今こそ一仏両祖のみ教えを、私共の身に少しでも実践することによって、宗門人はもとより仏教徒の皆さんや、多くの人々にとっても、一縷の光明を灯すことになるのではと思います。

また目前に迫りました石川素童禅師様の100回御遠忌、更には太祖大師様の大遠忌等の大事業も山積しています。こうしたとき、總和会首班の内局がスタートすることは、深い意味があるように思えてなりません。このことはお互いに責任内局としての自覚のもとに、強い隠忍自重が働いて鬼生田会長の無投票当選となられたことと、大変うれしく存じました。

どうか宗門の抱えております幾多の困難な課題を克服されて、万事無魔円成されますよう今一段と總和の力を結集し、一味同心の智慧を尽くして頂きたいものと、切に、切に祈念申し上げまして、私の祝辞とさせて頂きます。

第 27 回　總和会全国大会概要

平成30年11月６日（火）第27回總和会全国大会が、東京港区芝の「曹洞宗檀信徒会館」で開催。全国から代表140余名が出席されました。

午後１時３階桜の間に於いて、奥村孝善副理事長司会のもと名村直高副会長開式の辞により、大会式典が始まりました。江川辰三大本山總持寺貫首猊下ご親修のもと仏祖諷経・会員物故者追悼諷経が厳修されご垂示をいただきました。

鬼生田俊英總和会会長の式辞に続き、總和会最高顧問石附周行大本山總持寺副貫首、總和会常任顧問乙川暎元大本山總持寺監院、總和会常任顧問佐瀬道淳参議よりそれぞれ祝辞をいただきました。式典終了後、第１部大会会議は宗歌斉唱で始まり、議長に山辺文彰支部長（北海道）、副議長に甲斐史郎支部長（宮崎県）の両師を選出、議事に入り本山動静報告、宗務報告、会務報告があり、続いてブロック代表４名による意見発表及び質疑応答が交わされました。第２部の記念講演は落語家、露の新治先生の『新ちゃんのお笑い人権高座』と題して講演をいただきました。質疑を経て名村直高副会長の閉会の辞にて会議日程を終了いたしました。第３部の懇親会は３階蘭・菊の間に於いて、このたび新宗務総長に就任された、鬼生田俊英總和会会長の「歓迎の言葉」ではじまり盛大に開催され、午後７時30分無事全日程を終了し散会しました。

受　　付

江川大本山總持寺貫首

鬼生田總和会会長

石附副貫首

全国大会意見発表（要旨）

1、近畿ブロック代表
奈良県第 10 番
観音寺住職　澤野井嘉宏

僧侶教師分限規程第40条第 1 項第 3 号「帰俗の目的で自らの意思により寺院を去ったとき、過去の宗制と照し合わせると大きな隔たりがある」この点についてお尋ねしたい。

〈回答者：山本理事長〉

一切届け出せず、何もせずお寺を去ってしまった僧侶に問題があるのではないでしょうか。

現代に準じ、宗制に応じてこれまでの事務処理に誤解をまねかないように、印鑑証明等書類を添付して、提出して頂くようにお願いしております。

曹洞宗宗歌及び正法御和讃の歌詞解説についてお尋ねしたい。

〈回答者：山本理事長〉

双方共にお釈迦様とお弟子さん方との以心伝心であり即心是仏につながる内容であり、内容が深い意味合いがあると認識していただきたいと思います。

2、九州ブロック代表
熊本県第 48 番
神照寺住職　岩崎哲秀

日本の仏教興隆を願い、全日本仏教会において各宗派の仏紀（仏暦）を調査し「日本仏紀」（案）を制定していただきたい

〈回答者：森副理事長〉

仏紀・仏暦にはさまざまな説明があり、書に残すことはありませんでした。調べることは可能かと思いますが、この件につきまして、全日本仏教会に委ねたいと思います。

3、北信越ブロック代表
長野県第 427 番
霊松寺住職　伊東恭顕

過疎地、或いは地方における高齢住職寺院への何らかの救済措置はなされているのでしょうか。

上記のような寺院は檀家葬儀がネット葬祭業者等により運営に支障を来している。提案として宗門の人材データとネットワークを活かして葬儀、法要の仲介業務を行っては如何でしょうか。

〈回答者：嶽盛副理事長〉

現在、宗門において特に高齢住職寺院を対象として、個々の救済措置は講じてはおりません。

財政部では2020年度から適用予定で、現在調査を実施している階級査定において、過疎地控除を新たに設けて、指定地域に在る寺院の負担点数を控除することで、宗費の負担軽減するよう対応させていただいております。今後、寺院が地域社会で存立していくための効果的施策を実行しなければならないと考えています。

アマゾンの「お坊さん便」等、僧侶派遣サービスのお布施の定額表示については、一貫して反対を表明していた全日本仏教会は、アマゾンに対して販売中止を要請しています。伊東師提案の件につきましては、紹介できる僧侶の選定法や登録制にするにしても審査法等幾つか課題があると考えます。いただいたご意見を受け止めて、今後の検討課題としてまいりたいと存じます。

4、東北ブロック代表
宮城県第 277 番
長音寺住職　秋山公純

緊急（災害など）時の提出書類の簡略化と寺務手続きの支援。例えば宗務庁、宗務所職員等経験者による煩雑な書類作成や直接アドバイスを行うシステムは出来ないものでしょうか。災害は毎年各地で発生しており、長期的サポートが必要と考えます。

〈回答者：片山副理事長〉

被災寺院への対応といたしましては、「災害見舞金申請」、「災害見舞状及び見舞品申請」がございます。

「見舞金申請」については、被災寺院である申請人の押印は認印で構いません。被災したことを公的に証明する「罹災証明書」等の添付も不要とし、提出書類はなるべく被災寺院の負担にならないよう、簡略になっています。

ご提案の宗務庁、宗務所職員経験者等による被災した寺院の寺務手続き等を直接的にサポートすることについては、十分検討する必要があろうと存じます。今後も被災地、被災寺院に寄り添いながら継続して復興支援に尽力してまいりますので、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

記念講演
「新ちゃんのお笑い人権高座」

落語家　**露の新治 先生**

［講師紹介］

落語家。1951年１月８日大阪府生まれ。
出囃子は『金比羅』。元来、落語家になりたかったが、「芸人は堅気の仕事ではない」とのこだわりから、サラリーマンやら家業の手伝いをする。しかし、奈良県の夜間中学設立運動に関わり、「やりたいことをやるべきだ」と教えられ、落語家となる。また、夜間中学設立運動に関わる中で学んだ人権感覚を生かし、人権講演会の講師としても活躍中。

私達は生まれてから死ぬまで笑顔で暮らすことを約束された「宝の子」。それを犯さないようにするのが人権感覚。人は生まれながらにして人として尊敬される。自由平等を保障され、幸せに生きる権利がある。私達は宝の子。この言葉を広めたいと思う。宝の子とは自分から見た子供だけでない。ご先祖様から見れば、全てが宝の子。祖父母から見れば死ぬまで自分は孫。最後まで笑顔で人生を全うして欲しいと願うもの。

「自尊感情」という言葉がある。自分を尊ぶ。自分は生まれながらにして尊い。今の自分のままでいいのだ。その代わり、隣の人もそのままでいいのだから、尊重しなければいけない。人として生まれたこと自体有難いことだが、ひと度生まれると、「這えば立て立てば歩めの親心」というように、次々と願いが増す。例えば孫の運動会。祖父母は我が孫の活躍を期待して応援する。徒競争で一着にでもなれば手をたたいて大喜び。決して競争がいけないとは言わない。しかし、勝負にこだわり過ぎると思わぬ落とし穴がある。本来競争とは感動を与えてくれるもの。より良く生きるために競争がある。例えば箱根駅伝。必死に走る選手の姿は見る側に生きる勇気を与えてくれる。人や社会がきらきら輝くパワーをくれる。しかし、競争はあくまでも手段、目的であってはならない。

手段であるはずの競争が目的となってしまうとどうなるか。勝利という目的達成のために何でもする。不正をも辞さない。これでは選手が輝かない。本末転倒。勝ち負け至上主義になれば、競争の意味が失われる。より良く生きるために競争がある。これを忘れてはいけない。学生時代に「手段の自己目的化」という言葉を学んだ。例えば国会議員になるのは手段で、国会議員になってから何をするかが目的であるべきなのに、議員になったこと自体が目的に変わってしまう。手段が自己目的化してしまう誤りは、人権や差別問題を考える上でも注意しなければならない。

私（宝の子）という存在は、両親（２人の人間）の命と繋がっている。10代遡ると1024人、33代遡ると85億のご先祖様の命と繋がる。これは、現在の世界人口71億を上回る。私達は皆宝の子と思って間違いない。１人が85億の命と繋がっているとすると、日本人口１億は、１億×85億という天文学的数字の命と繋がっていることとなる。しかし、33代前即ち1000年程前にそれだけの人がいたのか疑問が生じる。

当時の日本の人口は200 ～ 300万、多くても1000万人と推定される。つまり、私達のご先祖様はお互いにダブりまくり。血筋も混ざりまくり。ここから、二つのことが言える。一つは、部落差別の問題。先祖も血筋もほとんどダブりまくり、混ざりまくっているのだから、血筋がどうのこうのと言えない。血筋によって、人の値打ちを上げ下げすることはできない。もう一つは、お盆の迎え火は一斉に焚いてはいけない。ご先祖様が行き先に迷う（笑い）。自分の血筋もはっきり把握できないのに、血筋が違うなどと言って他人を排斥してはいけない。「不当な分けへだて」をなくす。これが人権を考えるうえで大切なこと。

しかし、受験の際に合格点に達していても、親の出身地など全く別の理由で合格を取り消されたり、国籍情報によって受験すらできないことがある。自分の親や国籍は選べない。それは本人の責任ではない。背が高い低いとか、髪の毛や肌の色の違いなど身体的な特徴も同じ。自分がコンプレックスに感じていることを他人が指摘したら差別に繋がる。親や国籍がどうであれ、身体的な特徴がどうであれ、それは本人の価値を下げるものでは全くない。不当な分けへだてをしなければいい。決して難しいことではない。

だが、そう分かっていても、ついしてしまうのは私達の都合、勝手さである。周りの人を見て、この人は自分よりも上、この人は自分よりも下などと勝手に思い込む。自分より下だと思う人から何か言われると腹が立つ。上だと思う人から言われたら納得してしまう。

自分より上だの下だのと思って生きている限りこの状況は変わらない。周りばかり見て自分を見つめようとしていない。これが差別を生む。

差別を語るとき「被差別」と言うが、そもそも被差別（差別される側）だけがあるのではない。私はこう言いたい。重要なのはもう一方にある「加差別」（差別する側）。自分が加差別の側に立っていないか、常に自分に問いかけるべき。

更に被差別と加差別の間には「自分差別」が存在すると思う。自分は子供の頃背が低く親からも背が伸びるよ

うカルシウムをたくさん摂れと言われ、背が低いのは良くないと思っていた（自分差別）。背の高い人から、おまえは背が低いと言われるのがコンプレックスだった。一方自分より背の低い人には優越感を持った。それを言葉にもした。こうなると加差別である。自分が差別をしておいて、自分への差別をはね返すことはできない。そこで考えた。人間の身長と人間の価値は全く関係ない。これですっきりした。水平社以来の「解放」とは、自分を解放することだと納得した。

被差別（差別される側）に責任は全くない。加差別の者が被差別の側に責任をなすりつけて自分の正当性を主張することがあってはならない。

差別意識の構造は、パイナップルの缶詰みたいなもの。薄っぺらで、芯をくり抜かれたばらばらな輪切りが積み重なっている虚ろな存在。その中で何を拠り所とするか。「自分は何段目だろうか」。上の段が下の段を見下して優越感を持つ。これだけが拠り所。他に拠り所はない。自分もそうだった。

しかしこう考えた。自分に芯はあるのか。自分は何をしたいのか。自分への戒めとして「自芯」という言葉を思いついた。自分に芯を持つと、しっかり、しゃっきりと生きられる。自分の人生は自分が主役。優越感を持たなくて良くなる。すると、「自芯」が「自信」に変わる。自分らしさの自負。他者と対等にかかわれる。更に「自信」は「自身」（自分自身）を見つめることになり、その結果、加差別の自分を変革することができる。自分を棚上げしている間はこの様な考えにならない。しっかりと自分をみつめて頂きたいと思う。

山本理事長

宗歌斉唱

議長・北海道　山辺文彰師／副議長・宮崎県　甲斐史郎師

記念講演

總和会会務報告

期日	会務内容	
８月29日	執行部会	（總和会本部）
９月12日	新人議員研修会	（總和会本部）
９月27日	顧問･執行部会、理事会、執行部会	（總和会本部）
10月15日	執行部会、顧問･執行部会、議員総会	（總和会本部）
10月16日	議員総会	（總和会本部）
11月１～２日	東北大会	（山形）

お見舞い

平成30年は全国各地において多くの自然災害が発生いたしました。お亡くなりになられた方々に対し謹んでお悔やみ申しあげます。

また、被災された皆様には心よりのお見舞いと一日も早い復興がなされますことを祈念いたします。

總和会本部

新　議　員　紹　介

第３区　埼玉県第416番
昌福寺　荒 井 裕 明

宗門行政上の改善すべき点についてしっかり取り組んでいく所存です。宜しくお願い致します。

第４区　群馬県第95番
雙林寺　石 附 正 賢

「總和会三綱領」をもとに真摯に汗をかく所存です。宜しくお願い申し上げます。　合掌

第７区　静岡県第215番
貞心寺　坂 本 泰 俊

宗門の明るい未来を具現する為に議員としての自覚を持って全力で取り組みますので宜しくお願いします。

第８区　静岡県第927番
正眼院　清 泉 文 英

様々な意見に耳を傾け、真摯に宗務行政に取り組んで参りますので、何卒宜しく御願いします。

第15区　兵庫県第189番
観音寺　平 岩 浩 文

宗制を勉強しながら地元寺院諸問題、宗門行政に取り組んでまいります。何卒よろしくお願いします。

第20区　福岡県第６番
長圓寺　甘 蔗 英 司

災害時の相互扶助の制度の向上、僧堂教育規程の変更した真意を議員として改めて理解し寄与できればと思っています。

第21区　長崎県第４番
光雲寺　福 田 光 昭

付託を受けた議員として、寺院福祉の増進になるように、宗門立法機関の一員として努力する覚悟です。

第26区　新潟県第82番
養廣寺　乙 川 良 介

大道長安に透るの信を以って精進してまいる所存です。なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

第31区　山形県第663番
正徳寺　佐 藤 清 廉

議員として責任の重さを深く受け止め、一生懸命勤めて参ります。何卒、ご指導お願い申し上げます。

第32区　北海道第486番
薬王寺　田 中 清 元

今の日本の繁栄は、多くの犠牲の上に築かれたもの。宗政の立場からも平和への願いを伝えていきたい。

總和会役員構成（平成30年10月22日現在）

最高顧問　石 附 周 行
常任顧問　乙 川 暎 元
顧　　問　藏 山 光 堂

会　　長　鬼生田 俊 英
副 会 長　岡　　芳 雄
理 事 長　山 本 健 善
副理事長　森　　元 亨
副理事長　岩 井 秀 弘
副理事長　大 坂 恵 司

常任理事
関　東　荒 井 裕 明
近　畿　平 岩 浩 文
九　州　福 田 光 昭

常任顧問　佐 瀬 道 淳

副 会 長　名 村 直 高

副理事長　嶽 盛 和 三
副理事長　片 山 昌 佳
副理事長　奥 村 孝 善

東　海　坂 本 泰 俊
中四国　五十嵐 靖 雄
北信越　乙 川 良 介
東　北　深 川 典 雄
北海道　田 中 清 元

会長指名　山 本 健 善
会長指名　嶽 盛 和 三
会長指名　片 山 昌 佳
会長指名　奥 村 孝 善
会長指名　森　　元 亨
会長指名　岩 井 秀 弘
会長指名　大 坂 恵 司

監　　事　藏 山 大 顕
監　　事　清 泉 文 英

宗議会議長　須 田 孝 英
總和会内局員
宗務総長　鬼生田 俊 英
総務部長　橋 本 壽 幸
伝道部長　中 村 見 自
人事部長　成 田 隆 真
檀信徒会館事業本部事業部長　倉 内 泰 雄

【訃　　報】

塩竈博隆議員
　平成30年10月８日、第29選挙区選出の塩竈博隆議員ご遷化。
来原眉尊元議員
　平成30年10月25日、第７選挙区選出の来原眉尊元議員ご遷化。
加藤大眞元議員
　平成30年11月13日、第６選挙区選出の加藤大眞元議員ご遷化。
佐伯逸雄元議員
　平成30年11月20日、第19選挙区選出の佐伯逸雄元議員ご遷化。

ここにご遺徳をしのび、謹んで哀悼の意を表します

第28回總和会全国大会

◇2019年10月８日（火）
◇会場・曹洞宗檀信徒会館

編集・奥村孝善　大坂恵司　荒井裕明　石附正賢
平岩浩文　甘蔗英司　佐藤清廉